

# 岡山孤児院跡

設置位置		表示内容
所在地	岡山市中区門田屋敷1-3 岡南キリスト教会	 <p>「虎籠橋社の父」と言われた石井千次が創設した、日本で最初の孤児院です。</p> <p>明治20年（1887）、育児2名と共に岡山市門田屋敷大福の三友寺の一室を借り受け、「日本孤児教育会」を設立し、後に「岡山孤児院」と改称しました。以降、災害地などから孤児が集まり、設立20年目には1,200名を収容する大規模な孤児院となりました。明治45年に石井の郷里である宮崎県日向へ本拠地が移転するまで、明治天皇・皇后両陛下をはじめ、多くの援助者の協力によって事業が続けられました。</p> <p><small>発行編集：日本イエス・キリスト教団 岡山教会 岡山市</small></p>
 <p>凡例   : 設置位置</p>		

# 中世山陽道

設置位置		表示内容
所在地	岡山市中区国府市場99-5	
		<p>凡例</p> <p>✕ : 設置位置</p>
		<p>岡山歴史館中 ー 17の歴史を知るー</p> <h2>中世山陽道</h2> <p>古代、備前国の国府は、現国府市場に建つ国府宮 辺りにあったと推定されています。一方、当時の山陽道は都と大宰府を結ぶ大幹線として畿奥界道路に格付けされていて、現国府市場から平谷で尾川を渡り津屋へと進みながら、国府への連絡道として平谷から国府へ迂回する支路が分岐していました。</p> <p>中世になり、かつての山陽道は最上級から格落ちし、ルートも様々変わりましたが、国府への支路は残り、中世山陽道の一部となっていました。</p> <p>当地を通る中世山陽道は、現在の備前大橋辺りで古井川を西へ渡り、直々ルートを買えながら古郡へ至り、さらに南下して国府公民館前を通り、三軒渡し(約産し)で尾川を渡り、平谷山陽道の油桶町橋手へと通じていました。</p> <p><small>情報提供 岡山市中區高島公民館(古井川) 岡山市</small></p>

# 伊木家下屋敷長屋門

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区小橋町1丁目3-7付近	
		

# 備前八幡宮

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区八幡東町1付近	
<p>凡例  <span style="color: red;">✕</span> : 設置位置</p>		<p><b>備前八幡宮</b></p> <p>岡山県倉敷市文化財保護課、岡山県歴史、歴史          研究に大助の庵に、基方として御膳し、大助          庵の上を目的の道たりにして御膳しました。御          膳は、此道が出来ることの前にはやあらし          ぶを御膳したに違ひありません。御膳は、御          膳に岡山県の史蹟を御膳すべく、其の地中          (167) 地、其の地方に於てこの御膳を御膳          しました。</p> <p>その他、延享4年(1787)、4代岡山藩主が          岡山県八幡宮(現・岡山県八幡宮)より御          膳を御膳して御膳を御膳し、御膳と御膳          ようになりました。以後、岡山藩の御膳を御膳          を御膳するとともに、御膳の御膳として御膳の          御膳を御膳しています。其の御膳(1909)          及び御膳(1994)に、御膳を御膳しました。御          膳は御膳の御膳により御膳を御膳して御膳          しています。御膳(2015)には御膳(1909)が          御膳に御膳した。</p> <p>岡山県歴史、岡山県歴史研究センター          岡山県歴史、岡山県歴史研究センター</p>

# 岡山藩医学館・大病院跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区東山1丁目1 東山公園	
<p>凡例  <span style="color: red;">✕</span> : 設置位置</p>		<p>岡山藩医学館・大病院跡</p> <p>明治3年(1876)4月、岡山藩は医学の進歩を促すため、備前国上総郡門田村福山の藩の料所院と台領寺跡(現岡山市中区東山公園)に医学館及び大病院を築設しました。</p> <p>明治維新直後の混乱期において、壬辰安宅、岡山藩政、計本利直、右等諸君らの先見による確固たる考えと献身的な尽力により、存続の危機を乗り越え、医学校・病院の礎が築かれました。</p> <p>その後、幾多の変遷を経て大正10年(1921)4月、彦田村(現岡山市北区彦田町)に岡山医学専門学校として移転し、大正11年(1922)4月に岡山医科大学、昭和24年(1949)の学制改革により岡山大学医学部及び病院となり、現在に至っています。</p> <p>(解説執筆：徳川町「岡山藩医学館」) 岡山府</p>

# 富山小学校建学之地

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区福泊342-1 JA岡山富山支所	
<div data-bbox="811 399 1130 521" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>凡例  <span style="color: red;">✕</span> : 設置位置</p> </div>		<p><b>富山小学校建学之地</b></p> <p>＜沿革＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>明治15年（1882年） 上流郡富山村吉富小学校として当地に創設</li> <li>明治23年（1890年） 上流郡富山村榎原富山小学校と改称</li> <li>大正8年（1919年） 旧榎原小学校代用附設小学校として創設</li> <li>昭和16年（1941年） 上流郡富山村国民学校と改称</li> <li>昭和22年（1947年） 上流郡富山村立富山小学校と改称</li> <li>昭和27年（1952年） 岡山市に編入し、岡山市立富山小学校と改称</li> <li>平成21年（1990年） 現在地（〒760-2333）へ移転</li> </ul> <p><small>（資料提供：富山小学校建学之地の歴史を語る会 岡山県）</small></p>

# 祇園大樋

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区祇園596付近	
<p>凡例  <span style="color: red;">✕</span> : 設置位置</p>		<p>岡山歴史散歩 ー 水とのかたちと暮らしー</p> <h2>祇園大樋</h2> <p>この樋は、土木建築の天才として知られた津田 深忠が評新田などの新田開発を行った際、大量の灌漑用水の必要性から、元禄5年(1692)、彼の指揮のもとに築造されたと考えられています。その巨大さから、狭き水道の地盤に因んで「瀬田大樋」と呼ばれるようになりました。</p> <p>祇園大樋とは、溝内で巻貝(物置)橋、石橋、瓦樋、下樋橋、築山御用水樋門、分岐溝樋門と呼ばれる6種類の橋脚です。昭和36年(1961)からの改修工事で物置(石橋)橋と石橋を3橋の橋としたため、現在は599門となっています。</p> <p>大樋が供給する用水は、築山平野一帯の水田の灌漑のために止まらず、かつては御津園(現築山園)にも供給され、築山神社の生活用水としても利用されるなど、幅広く活用されながら現在もその重要な役割を担い続けています。</p> <p><small>(情報提供：岡山県立歴史民俗学館 岡山県立歴史民俗学館)</small></p>

# 大師駅跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区関279付近	
<p>凡例   : 設置位置</p> <p>30m</p> <p>PASCO Incentiv P</p>		<p>岡山歴史散歩 21. 大師駅跡</p> <h2>大師駅跡</h2> <p>大正4年(1915)</p> <p>西大寺(西大寺)は、西大寺一帯に築かれた3フィートゲージ(914mm軌間)の私鉄です。昭和44年(1919)12月25日、西大寺～関(旧線)開通(現線開通)時に開業し、大正4年(1915)11月4日には長瀬～岡山(現線)間の全線が開通しました。以降、昭和57年(1982)9月6日に廃止されるまで、沿線からは「けえべん(新線)線」の名で呼ばれていました。</p> <p>この「けえべん」は、1.4kmを190分かけて、オオゴトと田原の間にのみ運行していました。急行車を除くほかの列車は、従来の西大寺～関(旧線)の途中を乗り190分に到達するまでの間で到着が留められていました。無道が廃止された今も沿線の人々に愛顧を持って残られています。</p> <p>この辺りが実跡跡地です。実跡は「関駅」その跡(橋本駅)と呼ばれていました。文正5年(1916)10月7日、第16回の大岡山(オオゴト)への列車が到着したため、「大岡山」と改称されました。</p> <p>岡山県立歴史博物館          岡山県立歴史博物館(岡山市中区)のウェブサイト</p>

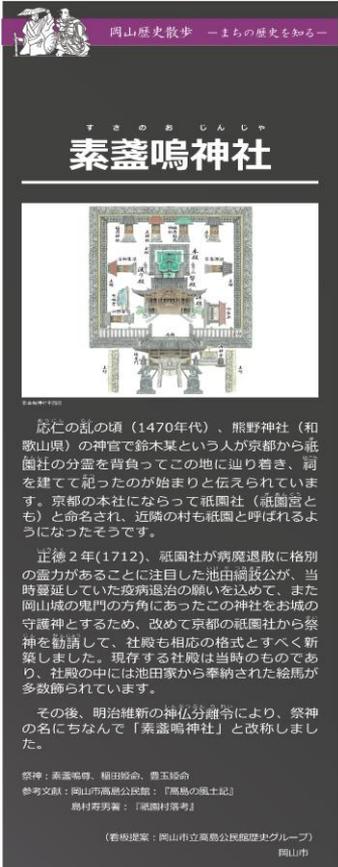
# 玉井宮東照宮本殿

平面図		表示内容
住所	岡山市中区東山1丁目3-81	 <p>岡山歴史散歩 一歩の歴史をたどる</p> <h2>玉井宮東照宮本殿</h2> <p>この東照宮は、岡山城ならびに備前野、また岡山の政務の府庫として、中興はめて初めて日足兼前軍から勧請されたものです。社殿造営にあたっては、徳川幕府の作事方総大工であった木原忠光が大工棟梁に、岡山藩の作事方総大工であった横田三郎右衛門が全工に当たったことから、徳山藩主頼田元正の東照宮造営に由けを懐い思いがつかえます。</p> <p>昭和20年（1945）6月29日の岡山空襲では、徳川邸の焼失を受けたものの機失せず、岡山市内で唯一、空襲の被害を受けながらも江戸時代の木造建築が震災遺構として残る場所となりました。</p> <p>平成元年（1989）1月31日本明に不慮の火災により、幣拝所・神庫所・社務所・祭具所などを焼失しましたが本殿は罹災に残り、平成12年（2000）には県指定重要文化財となりました。</p> <p>情報提供：玉井宮東照宮 岡山県</p>
地番(公図)	岡山市東山1丁目1099番地	
 <p>凡例 ✕ :設置位置</p>		

# 喜兵衛様祭祠堂・墓所

平面図		表示内容
住所	岡山市中区土田997付近	 <p>岡山歴史散歩 一人の歴史を知らず</p> <p>喜兵衛様祭祠堂・墓所</p> <p>この場所から西側約50mの場所に喜兵衛様祭祠堂、北側約150mの場所に喜兵衛様とその家族の墓所があります。</p> <p>江戸時代の堀川氾濫による大災害の際に、幕府から新しい年貢の取り立てがありました。その際に新しく親代表に選ばれた喜兵衛様が自決を行うことで、年貢の免除が行われました。</p> <p>当地区では土田村の次男として現在まで語り継がれており、現在も住民、子ども会が祭祠堂と墓所の清掃やお供えを行っています。</p> <p>（情報提供：土田町内会）</p>
地番(公図)	岡山市中区土田1111番、1112番	
 <p>凡例   :設置位置</p>		

# 素盞鳴神社

平面図		表示内容
住所	岡山市中区祇園168	 <p>岡山歴史散歩 一まちの歴史を知る</p> <h2>素盞鳴神社</h2> <p>応仁の乱の頃（1470年代）、熊野神社（和歌山県）の神官で鈴木某という人が京都から祇園社の分霊を背負ってこの地に辿り着き、祠を建てて祀ったのが始まりと伝えられています。京都の本社にならって祇園社（祇園宮とも）と命名され、近隣の村も祇園と呼ばれるようになったそうです。</p> <p>正徳2年（1712）、祇園社が幕府退散に格別の霊力があることに注目した池田補政公が、当時蔓延していた疫病退治の願いを込めて、また岡山城の鬼門の方角にあったこの神社をお城の守護神とするため、改めて京都の祇園社から祭神を勧請して、社殿も相應の格式とすべく新築しました。現存する社殿は当時のものであり、社殿の中には池田家から奉納された絵馬が多数飾られています。</p> <p>その後、明治維新の神仏分離令により、祭神の名になんて「素盞鳴神社」と改称しました。</p> <p>祭神：素盞鳴尊、稲田姫命、曹玉姫命 参考文献：岡山市高松公民館：『高松の風土記』 鳥村寿男著：『瀬園村考』</p> <p>（看板提案：岡山市立高松公民館歴史グループ） 岡山市</p>
地番（公図）	岡山市中区祇園字長盛168番728	
 <p>凡例 X：設置位置</p>		

# 三幡轻便鉄道線路跡

平面図		表示内容
住所	岡山市中区平井6丁目3-13付近	 <p>岡山歴史散歩 - まちの歴史を知る -</p> <p>さんばんりきんてつどうせんろ 跡</p> <h2>三幡轻便鉄道線路跡</h2> <p>三幡轻便鉄道は大正4年(1915)8月11日に運行が開始されました。かつて、倉安川交差点内に倉安川にかかる鉄橋があり、左下の写真は鉄橋を渡る三幡轻便鉄道を撮影したものです。</p> <p>最初、海の玄関口と呼ばれていた児島湾に面した三幡港から桜橋を結び、主に工場へ石炭や女工さんを運ぶために貨車と客車の混合列車を走らせていました。さらに、大正12年(1923)2月5日に簡清寺まで延伸され、次第に観光客や釣り客にも人気となりました。一時は年間10万人を超える人々の生活の足として利用されていたそうです。</p> <p>しかし、昭和6年(1931)に鉄道用地の主要部分が岡山市の都市計画道路(現在の岡山玉野線)に飲み込まれることとなり、同年6月30日に三幡轻便鉄道は幕を閉じ、わずか15年10カ月余りの短命に終わりました。</p> <p>右下の写真は、昭和48年頃に倉安川交差点付近を撮影したもので、取り壊された鉄橋の橋台が写っています。</p> <p>参考文献：三幡鉄道研究会：「三幡轻便鉄道 開通100周年記念」 (提供：三幡鉄道研究会 岡山市)</p>
地番(公図)	岡山市中区平井五丁目16番5	
 <p>凡例</p> <p>✕ : 設置位置</p>		

# 倉田新田と沖新田

## 設置位置

## 表示内容

所在地

岡山市中区桑野715-2





# 藤原駅跡

## 設置位置

## 表示内容

### 所在地

岡山市中区藤原西町1丁目4付近

